

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願ひ-

国立国際医療センターでは、本センターで保管している診療後の残余（余った）検体と診療情報等を使って、下記の研究を実施しています。

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問合せ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の検体・診療情報等を「この研究に利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の問合せ担当者までお申し出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。

NCGMバイオバンクにご同意いただいている場合には、バイオバンクで収集された試料も本研究に利用します。バイオバンクからの利用を望まれない場合には、バイオバンクの同意撤回が必要になりますので、以下までご連絡ください。

NCGMバイオバンクお問合せ窓口 [ncgmbb@jihs.go.jp](mailto:ncgmbb@jihs.go.jp)

[研究課題名] 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の病態解明と新規診断・治療法の開発に資する前向き研究

[研究対象者]

2002年1月1日から2025年12月31日までに国立国際医療センターにおいて、臨床検査により溶血性レンサ球菌 (*Streptococcus pyogenes*, *Streptococcus agalactiae*, *Streptococcus dysgalactiae* 等) が検出された方。

[利用する検体・診療情報等の項目と取得方法]

検体：血漿、血清、DNA、微生物検査残余検体（うち、残余があるものに限る。）

診療で検査を行った後に余ったものを利用します。

診療情報等：診断名、年齢、性別、入退院日、症状、既往歴、併存疾患名、血液検査、微生物検査、投薬情報カルテから上記に該当する情報を収集し利用します。

[利用の目的]（遺伝子解析研究：有）

劇症型溶血性レンサ球菌感染症について解明することを目的としています。

[共同研究機関及び研究責任者]

上記の検体・診療情報等を、下記機関に対して、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 病態解明の共同研究実施のために提供します。

〔主な提供方法〕 直接手渡し 郵送・宅配 電子的配信 その他（ ）

- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1. 京都大学 医学部 微生物学講座・教授 中川一路    | 3. 大阪大学 大学院歯学研究科 講師 広瀬 雄二郎 |
| 2. 金沢大学 先進予防医学研究センター 准教授 平安恒幸 | 4. 東邦大学 医学部 准教授 吉澤定子       |
|                               | 5. 東京都立墨東病院 感染症内科 部長 中村ふくみ |

[研究実施期間] 研究の実施許可日より2026年3月31日までの間（予定）

[この研究での検体・診療情報等の取扱い]

本機構倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、利用・提供する検体や診療情報等から氏名、生年月日等の情報を削除し、個人が特定されることがないように加工をしたうえで取り扱います。

管理責任者: 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 国際感染症センター 岩元典子

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問合せ担当者]

機関長：国立健康危機管理研究機構 理事長 國土 典宏

研究責任者：国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 上級研究員 竹本訓彦

研究内容の問合せ担当者：国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 竹本訓彦

電話：03-3202-7181（代表）（応対可能時間：平日9時～16時）